

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 5 回相模原市観光振興審議会				
事務局 (担当課)		市長公室シビックプライド推進部観光・シティプロモーション課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		令和 2 年 8 月 2 5 日 (火) 午後 3 時 0 0 分 ~ 4 時 3 0 分				
開催場所		相模原市立市民会館 3 階 第 1 大会議室				
出席者	委員	9 人				
	その他	-				
	事務局	9 人 (シビックプライド推進部長、ほか 8 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 相模原市観光振興審議会の概要について 3 会長・副会長の選出 4 議題 (1) 令和元年度及び令和 2 年度の取組について (2) その他 5 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 相模原市観光振興審議会の概要について

事務局より当審議会の概要について説明を行った。

3 会長・副会長の選出

相模原市観光振興審議会規則第3条第2項の規定に従い、会長及び副会長の互選により次のとおり定めた。

会 長 内藤 錦樹 委員（桜美林大学名誉教授、観光振興アドバイザー）

副会長 北村 美仁 委員（一般社団法人相模原市観光協会専務理事）

4 議題（○は委員、 は事務局の発言）

内藤会長が議長となり議事を進行した。

（1）令和元年度及び令和2年度の取組について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

主な意見等

○ 城山湖では、県外ナンバーの車も多く訪れているが、自転車（ロードバイク）で訪れる方も多く、自転車で来ている方にどこから来たのか尋ねたところ、東京から100km近く走ってきたという人もいた。

城山湖と同様に宮ヶ瀬湖方面でもサイクリストをよく見かけるが、日帰りである人が大多数で、泊まっていく人は、ほとんどいないものと思われる。

相模原市は、オリンピックの自転車ロードレース競技のコースの一部にもなっているので、宿泊を伴うような観光を推進する施策が必要と考える。

宿泊する施設自体が少ないといった課題もあるが、一方で本市にはキャンプ場が多く存在するので、キャンプ場と結び付けてサイクリングや里山体験等を含めたツアー等が組めないか検討しているところである。

自転車ロードレース競技のコースとなったのを契機として、それを生かして本市をPRすることは重要なことと考えており、オリンピックのレガシーとして、自転車を観光振興に生かせないかと考えている。

本市はネーミングだけで人を呼べる観光地ではないので、名所旧跡によらない何かを見つけていきたいという強い思いがある。そうした中で、首都圏に近い、あるいは自然と都市が近いといったところが強みだと考えている。新たに策定した第3次相模原市観光振興計画やオリンピックの機会に合わせ、取組を検討していきたい。新型コロナウイルス感染症は大きなピンチだが、チャンスに変える機

会にも成り得ると考えている。

- この2年間、市との協働事業として、石老山を中心としたハイカー誘客事業で道標や案内看板の整備等を実施してきた。しかしながら、昨年の台風で石老山の登山道や東海自然歩道が壊滅的な被害を受けてしまい、未だに復旧されておらず、地域のメインの事業が止まってしまい非常に苦しい状況である。現在も登山はできないが、そういった状況を知らずに石老山を目指してくるお客様は少なからずいるとのことであり、新しい登山道を探す等、地元としては検討している。

宿泊を推進する施策をという話があったが、市と観光協会連携してやっていかなければならないと感じている。相模原市は緑区の道志川沿いを中心に、かなりの数のキャンプ場がある。その資源を活用して、サイクリスト等呼び込むような計画を市や観光協会では検討している。都心から1時間以内、人が住んでいるところから近いところに里山がある、といったことも資源と捉え活用していくことが重要と考えている。また、こういった資源の活用を検討していくなかで、いかにして「体験」を外に伝え、発信していくのが大切である。

各政令指定都市の観光協会協議会を組織しているが、各観光協会での共通の傾向として、観光協会のホームページの閲覧数が年々減少している状況で、理由としては、観光客が旅行に行く際の情報源として活用するものが、ホームページではなく、SNSでの口コミなどに移行してきたことによるものであり、体験したことや経験したことを外に発信していくためにも、そういったツールの活用を検討していく必要がある。

市営キャンプ場の管理を受託しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式が変わったのか、宿泊のお客様が非常に増えている。相模原市から比較的近い県外ナンバーの車も増え、密をさける観点から1組あたりの人数が減っているが組数は増えており、最近提唱されているマイクロツーリズム1に最適だと思われる。生活様式が変わり、今後、アウトドア志向がますます強くなっていくのではないかと考えている。

国もGoToキャンペーンをはじめとして、コロナ禍における経済活性化に資する取組を進めているほか、補正予算を組んで各自治体に対する支援を実施しているところであるが、感染者数がなかなか減らない現状では、経済活動と感染症対策のバランスを考えると、国においても思い切った施策がとれない状況になっている。

本市としても、社会情勢を見ながら観光振興していく必要があると思うが、本市の強みである身近に大自然があることなどを中心に、相模原市の魅力を積極的に発信していきたいと考えている。

キャンプは密を回避するという面でも有効だと思われる。最近だと「グランピング」と呼ばれる高級志向のキャンプの需要が増えている。また、家族旅行等も、

旅行会社を通さず直接施設に申し込むパターンが多い。

- 今年度の取組のなかで、紙媒体の観光ガイドブックを作る予定とのことだが、今は電子媒体が主流だと思われる。せっかくパンフレットを作ってもどこに置いてあるかわからず、その場に来ないと内容もわからないとなると、そういった形が正しいのかよく検討したほうがよい。

- 相模原市は、マイクロツーリズムであったりワーケーション 2 であったり、都心の人を呼び込むにはかなり立地がいいので、いかにして皆に知ってもらうかを考えるのが重要。例えば、1 週間前のある YouTuber がプレジャーフォレストのアトラクションの動画を投稿したところ、既に 100 万回再生を超えていて、コメント欄では「行きたい」「どこにあるの?」といったことが飛び交っている。このように影響力のある人が発信すると、様々な人に知れ渡っていく。JAXA にしても、キャンプ場にしても、効果的なプロモーション手法をしっかりと考えたほうがよい。

温泉施設にサイクルラックを設置したところ、サイクリストの立ち寄りが増えた感触がある。統計を取っているわけではないが、ラックにかかっている自転車が增多している。例えば、相模原市はサイクリストにやさしいまちというのを発信して、どこのお店に行ってもサイクルラックがある等、サイクリストに対してウェルカムな環境を目指すといいのではないか。ワーケーションについては、IT 企業関係の方が活用することが多いと思われるので、通信網等のインフラ整備に取り組んでほしい。

- ワーケーションを検討する際に相模原市は有利だと思う。新型コロナウイルス感染症の影響で働き方の選択肢が増えたと感じている。ワーケーションという切り口で、いざという時は都心にすぐ出られて、そうじゃないときは相模原市で泊まりでも日帰りでも仕事をするスペースがあればとてもいいと思う。自然が豊かで、空気がきれいなイメージがあるので、ネット環境や会議室の充実等を図れば、お客様のニーズに対応できるのではないか。

具体的にワーケーション事業を検討しているわけではないが、ワーケーション等に係るニーズ調査に取り組むことについて検討しているところである。事業者の方の話を見ると、相模原市は来るのもいいが、何が 1 番いいかというとすぐに帰れるところとのこと。何かあったらすぐに会社に戻れるといった強みを生かしてワーケーション等に取り組むのがいいのではという話もいただいている。

- 地域で里山体験等を実施しているが、コロナ禍で問合せが増えており、毎日のように都心から参加者がきている。藤野には片山右京氏の自転車チームの合宿所があり、陣馬山等でトレーニングをしている。そのトレーニングの様子をチームの SNS で発信しているのか、同じトレーニングをしたいというサイクリストからの問合せも増えてきている。移住促進事業にも携わっていて、空き家を都内の

方に紹介して田舎に住んでもらおうとしている。昨年度は、台風が来る前はかなりの問合せがあったが、台風がきてからピタッと問合せが止まっていた。しかし、このコロナ禍でかなり問合せが増えてきており、移住促進をしていくチャンスだと考えている。空き家自体は増加しているが、なかなか貸していただけないといった課題はある。

観光・シティプロモーション課では、観光振興のみならず、シティプロモーションを通じて人口増加を促す役割もあると考えている。これまでも市において、都内で移住促進フェアに出展しPRしてきた経過などがあるが、その際に来場された方から「住居もそうだが、職が近くにないか」という質問が多く、住居と職場が近接していることが重要なポイントと感じている。移住促進に向けては、相模原市の強みである都心から近く、自然もすぐに体験できるといったところをPRしていきたい。併せて、本市が実施している新型コロナウイルス感染症対策もPRできればと考えている。

- 相模原市は工業都市として発展してきた歴史があり、当時は観光を推進していく都市ではなかったが、合併や政令市移行を経て、観光が産業として期待できる分野になってきたと思う。

しかしながら、観光インフラの整備が進んでいるとは言えず、この原因としては、地域のバランスを考慮すると総花的な施策となってしまう、取捨選択やここを伸ばしていくといった施策が取れていなかったためと考えられる。

新型コロナウイルス感染症の影響で観光業も打撃を受けたわけだが、逆に言えば考える猶予期間ができたのではとも考えられる。ワーケーションや在宅ワークはメリットもあればデメリットもあり、色々な意見がでてきている。そういった状況も考慮しながら、どこかに集中してやっていった方がいいと思う。

- やはり1番の影響は新型コロナウイルス感染症だと思われる。様々なイベントが自粛されており、残念だがこれからの時代、大型イベントの開催は難しくなっていくだろう。そういうことを踏まえる中で、マイクロツーリズムの推進はよい施策と思う。大切なことは観光資源の価値を高めることで、お客様が良いと思うからお金を落としてくれるので、いかにして付加価値を上げていくかを検討していく必要がある。

(2) その他

現在制作中の観光PR動画を紹介した。

5 閉会

以上

1 マイクロツーリズムとは、自宅から1時間から2時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光を指す。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2 ワークेशनとは、「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワーク(リモートワーク)を活用しながら、働きながら休暇をとる過ごし方。在宅勤務やレンタルオフィスでのテレワークとは区別される。働き方改革と新型コロナウイルス感染症の流行に伴う「新しい日常」の奨励の一環として位置づけられる。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
公 募 委 員	三宅 潔	公募委員			出席
関 連 団 体	北村 美仁	(一社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	大貫 幸雄	大島観光協会	会長		出席
	山崎 睦文	(一社)藤野観光協会	会長		出席
	小川 喜平	相模湖商工会	会長		出席
民 間 事 業 者	井上 康	(株)J T B 相模原支店	支店長		出席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道(株) 橋本駅	駅長		出席
	西山 尚孝	相模湖リゾート(株)	取締役社長		出席